

発生生物学

学術論文

- 1) Nimura M, Wakahara H: Butterflies of the central Lao P.D.R. in the low temperature and dry season (1997-2001). Transactions of the Lepidopterology Society of Japan 56:36-50, 2005
- 2) Kanda H, Tamori Y, Shinoda H, Yoshikawa M, Sakaue M, Udagawa J, Otani H, Tashiro F, Miyazaki J, Kasuga M: Adipocytes from Munc18c-null mice show increased sensitivity to insulin-stimulated GLUT4 externalization. The Journal of Clinical Investigation 115: 291-301, 2005
- 3) Kurahashi H, Taniguchi M, Meno C, Taniguchi Y, Takeda S, Horie M, Otani H, Toda T: Basement membrane fragility underlies embryonic lethality in *fukutin*-null mice. Neurobiology of Disease 19:208-217, 2005
- 4) Habib H, Hatta T, Udagawa J, Zhang L, Yoshimura Y, Otani H: Fetal jaw movement affects condylar cartilage development. Journal of Dental Research 84:474-479, 2005
- 5) Kagohashi Y, Udagawa J, Abiru N, Kobayashi M, Moriyama K, Otani H: Maternal factors in a model of type 1 diabetes differentially affect development of insulinitis and overt diabetes in offspring. Diabetes 54:2026-2031, 2005
- 6) Kagohashi Y, Udagawa J, Moriyama K, Otani H: Maternal environment affects endogenous virus induction in the offspring of NOD mice. Congenital Anomalies 45:80-84, 2005
- 7) 大谷 浩：神経・免疫・内分泌ネットワーク形成機構の解析：胎生期における ACTH の新たな機能を探る。ACTH Related Peptides 16:1-9, 2005
- 8) Udagawa J, Hashimoto R, Suzuki H, Hatta T, Sotomaru Y, Hioki K, Kagohashi Y, Nomura T, Minami Y, Otani H: The role of leptin in the development of the cerebral cortex in mouse embryos. Endocrinology 147:647-658, 2006
- 9) Udagawa J, Nimura M, Kagohashi Y, Otani H: Leptin deficiency causes pycnotic change in fetal cingulate cortical cells. Congenital Anomalies 46:16-20, 2006
- 10) Nimura M, Udagawa J, Hatta T, Hashimoto R, Otani H: Spatial and temporal patterns of expression of melanocortin type 2 and 5 receptors in the fetal mouse tissues and organs. Anatomy and Embryology 211:109-117, 2006

- 11) Chou S, Hermes E, Hatta T, Feltner D, El-Hodiri HM, Jamrich M, Mahon K: Conserved regulatory elements establish the dynamic expression of *Rpx/Hesx1* in early vertebrate development. *Developmental Biology* 292, 533-545, 2006
- 12) Nimura M, Otani H: A gynandromorph of *Papilio memnon agenor* Linnaeus (Papilionidae) from the Lao P.D.R. *Transactions of the Lepidopterology Society of Japan* 57:105-110, 2006
- 13) Hatta J, Hatta T, Moritake K, Otani H: Heavy water inhibiting the expression of transforming growth factor- β_1 and the development of kaolin-induced hydrocephalus in mice. *Journal of Neurosurgery (4 Suppl Pediatrics)* 104:251-258, 2006
- 14) Udagawa J, Nimura M, Otani H: Leptin affects oligodendroglial development in the mouse embryonic cerebral cortex. *Neuroendocrinology Letters* 27:177-182, 2006
- 15) Tatewaki R, Kagihashi Y, Otani H: Analysis of polyploid cells in mouse embryonic cells cultures under diabetic conditions. *Congenital Anomalies* 46:149-154, 2006
- 16) 川上浩平, 河本 舞, 堀江哲史, 三原安経, 野村正人, 山田高也, 小林裕太, 大谷 浩: 室内環境におけるフィトンチッドの消臭効果の検討. *環境管理技術* 24:17-22, 2006
- 17) Udagawa J, Hashimoto R, Hioki K, Otani H: The role of leptin in the development of the cortical neuron in mouse embryos. *Brain Research* 1120:74-82, 2006
- 18) Hatta T, Matsumoto A, Ono A, Udagawa J, Nimura M, Hashimoto R, Otani H: Quantitative analyses of leukemia inhibitory factor in the cerebrospinal fluid in mouse embryos. *NeuroReport* 17:1863-1866, 2006
- 19) Suzuki H, Ishimoto K, Tashiro H, Tashiro M, Udagawa J, Prakash GKS, Olah GA: Reduction of quinoline with Raney Nickel alloy in acetic acid aqueous solution. *The Japanese Journal of Deuterium Science* 12:45-47, 2006

学会発表

- 1) 籠橋有紀子, 宇田川潤, 古林正和, 森山賢治, 阿比留教生, 大谷 浩: 母体環境の相違による NOD マウスの病態変化. 第 19 回日本糖尿病動物研究会年次学術集会. 京都市, 2005 年 2 月

- 2) 大谷 浩：組織形成期における神経免疫内分泌ネットワーク形成機構の解析：胎生期における ACTH の新たな役割を探る。(特別講演) 第 16 回 CRH・ACTH 研究会。大阪市，2005 年 3 月
- 3) 二村正之，宇田川潤，八田稔久，橋本龍樹，大谷 浩：ACTH 分泌性株細胞 AtT20 のマウス胚への移植とその末梢組織への影響。第 110 回日本解剖学会総会。富山市，2005 年 3 月
- 4) Habib H，八田稔久，宇田川潤，張 立群，吉村安郎，大谷 浩：胎児の顎運動の制限が下顎骨頭軟骨の発生に及ぼす影響。第 110 回日本解剖学会総会。富山市，2005 年 3 月
- 5) 山岸主門，亀井 勉，籠橋有紀子，山本大介，大谷 浩，小浦誠吾：数種農作業が参加者の生理・心理反応に及ぼす影響。2005 年人間・植物関係学会鶴岡大会。山形市，2005 年 6 月
- 6) 籠橋有紀子，宇田川 潤，阿比留教生，古林正和，帯刀礼子，森山賢治，大谷 浩：1 型糖尿病発症過程への母体環境の影響について。第 78 回日本内分泌学会総会。東京都，2005 年 7 月
- 7) 八田稔久，二村正之，大谷 浩：胎生期における leukemia inhibitory factor の発現解析。第 45 回日本先天異常学会。東京都，2005 年 7 月
- 8) 橋本龍樹，Milan Jamrich，松本暁洋，大谷 浩：アデノウイルスによる一過性遺伝子導入による先天性小眼球症の治療の試み。第 45 回日本先天異常学会。東京都，2005 年 7 月
- 9) 宇田川潤，橋本龍樹，佐藤文夫，日置恭司，大谷 浩：マウス胎児の脳皮質発生におけるレプチンの機能。第 45 回日本先天異常学会。東京都，2005 年 7 月
- 10) 直良博之，松本 恵，籠橋有紀子，大谷 浩：カワラタケ抽出物が奇形発生を抑制するメカニズム。第 45 回日本先天異常学会。東京都，2005 年 7 月
- 11) 籠橋有紀子，宇田川 潤，橋本龍樹，森山賢治，大谷 浩：自己免疫性膵島炎の発症と母体環境の変化による内因性レトロウイルスの活性化。第 45 回日本先天異常学会。東京都，2005 年 7 月

- 12) 大谷 浩:胎生期における臓器の発生と生活習慣病の素因形成.(招待講演)第440回鳥取東部医師会臨床懇話会.鳥取市,2005年10月
- 13) 河本 舞:ラットの行動および自律神経機能に対するフィトンチッド(森林の香り)の作用.第44回日本生気象学会大会.出雲市,2005年10月
- 14) 宇田川 潤,八田稔久,橋本龍樹,大谷 浩:胎生期中枢神経系の発生におけるレプチンおよびIL-6関連サイトカインの役割.(シンポジウム)第60回日本解剖学会中国・四国地方会.徳島市,2005年10月
- 15) 河本 舞,川上浩平,三原安経,八田稔久,野村正人,大谷 浩:植物の二次代謝成分フィトンチッドがラットの自律神経系等の生理機能に及ぼす影響(2).第60回日本解剖学会中国・四国地方会.徳島市,2005年10月
- 16) 大谷 浩,籠橋有紀子,直良博之,名和田清子,田川麻美,帯刀礼子:食餌中の必須脂肪酸が1型糖尿病のハネムーン期に与える影響.第38回日本栄養・食糧学会中国・四国支部大会.松江市,2005年11月
- 17) 籠橋有紀子,沖本麻里,藤井由巳,直良博之,橋本道男,紫藤 治,大谷 浩:胎児期・新生児期に摂取する食餌中の必須脂肪酸が1型糖尿病に与える影響.第38回日本栄養・食糧学会中国・四国支部大会.松江市,2005年11月
- 18) 内藤貫太,宇田川 潤,大谷 浩:ヒト胎児形態計測データの様相.科学研究費シンポジウム「統計数理の基礎理論」.鹿児島市,2005年12月
- 19) 籠橋有紀子,直良博之,阿比留教生,古林正和,橋本道男,紫藤 治,大谷 浩:NODマウスの糖尿病発症に離乳前の必須脂肪酸摂取比率が及ぼす影響.第20回日本糖尿病動物研究会年次学術集会.東京,2006年2月
- 20) 八田稔久,松本暁洋,鈴木理樹,二村正之,小野篤輝,大谷 浩:マウス胎児におけるLeukemia inhibitory factorの定量的解析.第111回日本解剖学会総会.相模原市,2006年3月
- 21) 橋本龍樹,宇田川 潤,河本 舞,松本暁洋,大谷 浩:ニューロペプチドYのマウス新生児大脳における髄鞘化に対する影響とその機構.第111回日本解剖学会総会.相模原市,2006年3月

- 22) 宇田川 潤, 橋本龍樹, 籠橋有紀子, 二村正之, 佐藤文夫, 大谷 浩: マウス胎児
大脳皮質における細胞移動に及ぼすレプチンの効果. 第 111 回日本解剖学会総会.
相模原市, 2006 年 3 月
- 23) 松本暁洋, 八田稔久, 小野篤輝, 大谷 浩: マウス胎仔における Granulocyte
macrophage-colony stimulating factor の定量的解析. 第 111 回日本解剖学会総会 . 相模
原市, 2006 年 3 月
- 24) 籠橋有紀子, 直良博之, 阿比留教生, 古林正和, 橋本道男, 紫藤 治, 大谷 浩:
胎児期・新生児期の必須脂肪酸摂取比率が1型糖尿病発症に及ぼす影響について. 第
111 回日本解剖学会総会 . 相模原市, 2006 年 3 月
- 25) 和気功治, 宇田川潤, 橋本龍樹, 二村正之, 八田稔久, 米田達明, 岸 浩史, 滋野
和志, 椎名浩昭, 大谷 浩, 井川幹夫: マウス尿管の形成過程における細胞動態の
解析. 第 94 回日本泌尿器科学会 . 福岡市, 2006 年 4 月
- 26) 大谷 浩, 籠橋有紀子, 直良博之, 名和田清子, 森山賢治, 帯刀礼子: 必須脂肪酸
摂取比率が 1 型糖尿病のハネムーン期に与える影響. 第 49 回日本糖尿病学会 . 東
京, 2006 年 5 月
- 27) 籠橋有紀子, 直良博之, 阿比留教生, 古林正和, 宇田川 潤, 橋本道男, 大谷 浩:
母体を介した必須脂肪酸摂取比率が 1 型糖尿病発症に与える影響. 第 49 回日本糖
尿病学会 . 東京, 2006 年 5 月
- 28) 籠橋有紀子, 直良博之, 森山賢治, 大谷 浩: 1 型糖尿病のハネムーン期を修飾す
る必須脂肪酸摂取比率について. 第 48 回日本脂質生化学会 . 東京, 2006 年 6 月
- 29) Y. Kagohashi, A. Tagawa, R. Tatewaki and H. Otani: Japanese cuisine, with a low n-6/n-3
essential fatty acid ratio, prolongs the honeymoon period in type 1 diabetes of NOD mice.
20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th
FAOBMB Congress, Kyoto, Japan, June 18-23, 2006
- 30) 八田稔久, 二村正之, 大谷 浩: 胎児脳脊髄液における Leukemia inhibitory factor
および可溶性レセプターの発現解析. 第 46 回日本先天異常学会 . 山形市, 2006 年
6 月
- 31) 橋本龍樹, Jamrich M, 松本暁洋, 河本 舞, 大谷 浩: dyl/dyl マウスの小眼球
症をアデノウイルスによる一過性遺伝子導入により治療する試み. 第 46 回日本先
天異常学会 . 山形市, 2006 年 6 月

- 32) 宇田川潤, 内藤寛太, 安田 晃, 佐藤文夫, 大谷 浩: ヒト胎児組織形成期における多次元発生スタンダード作成の試み. 第 46 回日本先天異常学会. 山形市, 2006 年 6 月
- 33) 松本暁洋, 八田稔久, 大谷 浩: マウスの胎生期における顆粒球・マクロファージコロニー刺激因子の発現分布と作用の検討. 第 46 回日本先天異常学会. 山形市, 2006 年 6 月
- 34) 籠橋有紀子, 直良博之, 帯刀礼子, 大谷 浩: 胎児期・乳児期の食餌環境と 1 型糖尿病の発症について. 第 46 回日本先天異常学会. 山形市, 2006 年 6 月
- 35) 籠橋有紀子: 母体環境が 1 型糖尿病発症課程へ及ぼす影響: モデル動物を用いた解析. 第 46 回日本先天異常学会. (学術奨励賞受賞口頭発表) 山形市, 2006 年 6 月
- 36) 二村正之, 宇田川潤, 八田稔久, 橋本龍樹, 大谷 浩: 副腎皮質刺激ホルモン(ACTH) の胎生期マウスにおける組織・器官への影響. 第 77 回日本動物学会大会 . 松江市, 2006 年 9 月
- 37) 籠橋有紀子, 帯刀礼子, 武部恵美, 直良博之, 阿比留教生, 古林正和, 橋本道男, 紫藤 治, 大谷 浩: 離乳前の必須脂肪酸摂取比率が NOD マウスの糖尿病発症に及ぼす影響について. 第 77 回日本動物学会大会. 松江市, 2006 年 9 月
- 38) 大谷 浩: 膵臓を含む調和的な組織形成と子宮内環境. (特別講演) 第 22 回日本糖尿病・妊娠学会. 東京, 2006 年 11 月
- 39) 籠橋有紀子, 杉原尚恵, 武部恵美, 阿比留教生, 古林正和, 帯刀礼子, 大谷 浩: 必須脂肪酸摂取比率が 1 型糖尿病モデル動物の顕性糖尿病発症率に与える影響. (大森賞受賞) 第 22 回日本糖尿病・妊娠学会. 東京, 2006 年 11 月
- 40) 籠橋有紀子, 鎌田ルミ子, 帯刀礼子, 橋本道男, 紫藤 治, 阿比留教生, 森山賢治, 大谷 浩: 自己免疫疾患である 1 型糖尿病発症に及ぼす必須脂肪酸摂取比率の影響. 日本分子生物学会 2006 フォーラム. 名古屋市, 2006 年 12 月